

北琉球語における主格助詞ga/nuと節のタイプ

金城, 國夫

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

45

(開始ページ / Start Page)

71

(終了ページ / End Page)

93

(発行年 / Year)

2022-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00030156>

北琉球語における主格助詞ga/nuと節のタイプ

金城 國夫

0. 本稿の概要と構成

多くの琉球諸語ではga/nuという二種類の主格助詞が存在し、その選択は主格標示される名詞の有生性により決定されるということが知られている。しかしながら、格標示パターンは節のタイプや述語の選択などの統語的要因によって変化することが通言語的に報告されている。本稿では北琉球語（奄美語、国頭語、沖縄語）を対象に、そうした統語的要因が主格助詞ga/nuの使用に与える影響を記述する。1節で対象言語と調査協力者の概要をまとめ、2節で主語につくga/nuの交替、3節で目的語へのga/nu標示について論じる。4節で本稿の結論と今後の課題を示す。

1. 対象言語とデータの概要

本稿で扱うデータは特記しない限り執筆者が2019年から2021年にかけて沖縄本島と奄美大島瀬戸内町で行った聞き取り調査に基づくものである（図1参照）¹。調査協力者は当該言語が話されている地域出身の70代から90代の男女である。表1に調査協力者の概要をまとめる。なお、沖縄本島の方言に関してはUNESCOのAtlas of the World's language in Dangerによる中南部の沖縄語、北部の国頭語という区分を採用し、宜野湾方言は沖縄語、金武方言は西岡（2013）や玉元（2020）などに従い国頭語とした。

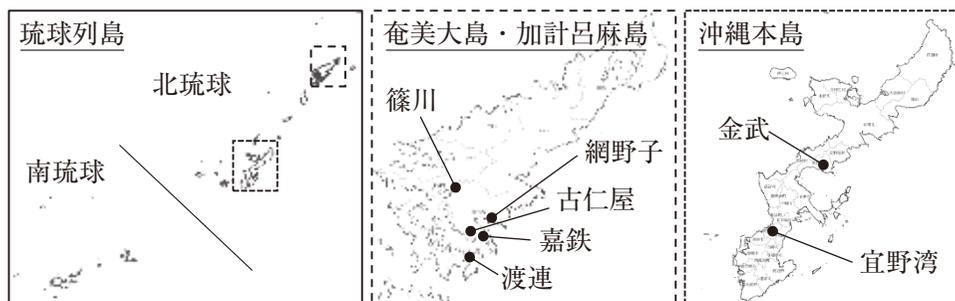


図1 本稿で扱う対象言語・方言²

¹ 本研究はJSPS科研費19K23060「北琉球方言文法の記述的・理論的研究：非典型的格標示を中心に」の助成を受けている。

² 国土地理院の地図データを基に執筆者が作成。

表1 調査協力者データ

言語名	話者（年齢は調査時のもの）	出身地
奄美語	82歳男性、94歳男性	瀬戸内町篠川
	72歳女性（2名）	瀬戸内町網野子
	74歳女性	瀬戸内町古仁屋
	70歳男性	瀬戸内町嘉鉄
	72歳男性	瀬戸内町渡連
国頭語	74歳男性	金武町並里
沖縄語	66歳男性	宜野湾市宜野湾

2. 主語におけるga/nu交替

ここでは主語を標示する主格助詞 ga/nu の交替について記述する。多くの琉球諸語において、ga/nu の選択は標示される名詞の有生性によってなされることが知られている（内間・新垣 2000、Shimoji 2010等参照）。典型的には(1)のように有生性階層（Animacy Hierarchy, Silverstein 1976）の親族名称目上・目下の上に ga/nu 使用の境界が見られる（内間・新垣 2000：265, 293、Shimoji 2018：94）。

(1) 有生性階層と ga/nu 使用領域

ガ	ヌ
代名詞 > 人固有 > 親族(目上) >	親族(目下) > 人普通 > 動物 > 無生物

2.1 節で見ると、70代以下の比較的若い話者は ga の使用範囲が広く、すべての有生性で ga の使用を容認する話者も多い。

従来の研究ではこうした主語の有生性に基づく ga/nu 交替の記述がなされてきたが、格標示とその配列は同じ言語や方言でも節のタイプなどの統語的環境によっても変化するという報告が多数存在する（角田 2009、Harris 1990等参照）。そのため、琉球諸語の ga/nu 交替においても、こうした統語的環境の影響を記述する必要がある。本節では北琉球語においても節のタイプが ga/nu 交替に影響を与え、関係節（2.1 節）、他動性の低い節（2.2 節）、疑問節（2.3 節）で nu の使用領域が拡大することを示す。

2.1 主節と関係節

琉球諸語の ga/nu に対応する現代共通日本語の主格助詞「ガ」と属格助詞「ノ」は主語の有生性ではなく、主語が現れる統語環境によって交替が可能である。例えば(2)のように、主節ではガのみしか使えないのに対し、関係節（連体修飾節）ではガ・ノの交替が可能で

ある³。

- (2) a. 太郎が／*の遅れて来た (主節)
- b. [太郎が／の遅れて来た] 理由 (関係節)

ガ・ノ交替に関わる統語的条件については特に生成文法理論の枠組みで盛んに研究されてきた (Harada 1971、Hiraiwa 2005、Maki and Uchibori 2008等)。また、こうした主格・属格の交替現象は日琉語族に限らず、トルコ語 (チュルク語族)、クスコ・ケチュア語 (ケチュア語族)、チャモロ語 (オーストロネシア語族)、エウェ語 (ニジェールコンゴ語族) など、地域や語族を超えて広く観察されるものである (Hiraiwa 2005 : ch 3 参照)。

琉球諸語では、先述したように主語の有生性に基づいて ga/nu が選択されるため、ga/nu 交替と主語の現れる統語環境の関係についてはほとんど記述されてこなかった。ここでは日本語のガ・ノ交替と同様、北琉球語でも主節と関係節という節タイプの差異が ga/nu 交替に与える影響を記述し、nu の使用領域が関係節で広くなることを示す。

まず比較のために日本語のガ・ノの使用領域を有生性階層に照らして見てみよう (表 2)。先述の通り、主節ではガの使用のみが可能である一方、関係節ではガ・ノの両方が使用できる。いずれの環境においても主語の有生性はガ・ノの使用領域に影響を与えない。表中の灰色部分が「ガ」の使用領域、網目部分が「ノ」の使用領域である。また太字になっている 1 人称代名詞、親族 (目上)、無生物の例を主節、関係節ごとに挙げる。

表 2 日本語におけるガ・ノの使用領域

主語の有生性		1/2 代名	3 代名	人固有名	親族目上	親族目下	人普通	動物	無生物
主 節	ガ								
	ノ								
関係節	ガ								
	ノ								

- (3) 主節
 - a. 私が／*の踊った (1 人称代名詞)
 - b. お父さんが／*の踊った (親族目上)
 - c. 水が／*の流れる (無生物)

³ その他、「～するまで」など、連体形述語を取る副詞節などでもガ・ノ交替が生じる。本稿では関係節に対象を絞って記述していく。

(4) 関係節

- a. 私が／の踊った場所 (1人称代名詞)
- b. お父さんが／の踊った場所 (親族目上)
- c. 水が／の流れる場所 (無生物)

これを踏まえ、北琉球語の ga/nu の使用領域を主節、関係節に分けて見てみよう。表3は奄美語古仁屋方言における ga/nu の使用領域をまとめたものである。灰色部分が ga の使用領域、網目部分が nu の使用領域である。それぞれの節で nu の使用領域境界 (表中太字) になっている例を(5)、(6)に挙げる。まず、ga の使用に関しては主節でも関係節でも有生性に関わらず可能である。一方、nu に関しては主節と関係節で使用領域に顕著な違いが見られる。主節では nu の使用が無生物から親族目下までに限られているのに対し⁴、関係節では3人称代名詞まで nu の使用が可能になっている。(5)のように、主節では親族目下名詞 (utuutu, 弟) には nu が使用できるが、3人称代名詞 (ari, あいつ) には ga のみ使用可能である。一方(6)のように、関係節では3人称代名詞でも nu の使用が可能になっている⁵。

表3 奄美語古仁屋方言における ga/nu の使用領域

主語の有生性		1/2代名	3代名	人固有名	親族目上	親族目下	人普通	動物	無生物
主節	ga								
	nu					?			
関係節	ga								
	nu								

(5) 主節 (古仁屋)

- a. utuutu=ga/nu udu-ta (親族目下)
- 弟=NOM 踊る-PST
- 「弟が踊った」

⁴ 主節における親族目上主語に関しては以下のような文に対し、「nuも使えるがgaのほうが自然」という判断であったため、「?」としている。

(i) ifan=ga/?nu udu-ta
 父=NOM 踊る-PST
 「お父さんが踊った」

⁵ 2.2節で節の他動性が与える nu の使用領域への影響について見るが、ここでは意志自動詞の例を挙げる。

- b. *ari=ga/*nu udu-ta* (3人称代名詞)
 あいつ=NOM 踊る -PST
 「あいつが踊った」

(6) 関係節 (古仁屋)

- a. *utuutu=ga/nu udu-ta-n tuhoroo* (親族目下)
 弟=NOM 踊る -PST-ADN 場所
 「弟が踊った場所」
- b. *ari=ga/nu udu-ta-n tuhoroo* (3人称代名詞)
 あいつ=NOM 踊る -PST-ADN 場所
 「あいつが踊った場所」

主節よりも関係節でnuの使用が広くなるという傾向は調査対象とした北琉球語方言のうち、同様の調査を行ったすべての方言で観察された⁶。以下、それぞれの方言におけるga/nuの使用領域と関連する例文(表中太字)を示す。

表4 奄美語嘉鉄方言におけるga/nuの使用領域

主語の有生性	1/2代名	3代名	人固有名	親族目上	親族目下	人普通	動物	無生物	
主節	ga								
	nu								
関係節	ga								
	nu								

(7) 主節 (嘉鉄)

- a. *mjaa=ga/nu hingi-ta* (動物)
 猫=NOM 逃げる -PST
 「猫が逃げた」
- b. *ari=ga/*nu udu-ta* (3人称代名詞)
 あいつ=NOM 踊る -PST
 「あいつが踊った」

⁶ 篠川、網野子方言では調査時間の関係上、同調査は行っていない。また、田畑(2009)に奄美語名瀬方言について同様の傾向を示す記述が見られる。

(8) 関係節（嘉鉄）

- a. *mjaa=ga/nu hingi-ta-n jaa* （動物）
 猫=NOM 逃げる-PST-ADN 家
 「猫が逃げた家」
- b. *ari=ga/nu udu-ta-n jaa* （3人称代名詞）
 あいつ=NOM 踊る-PST-ADN 家
 「あいつが踊った家」

表5 奄美語渡連方言における ga/nu の使用領域

主語の有生性	1/2代名	3代名	人固有名	親族目上	親族目下	人普通	動物	無生物
主 節	ga							
	nu							
関係節	ga							
	nu							

(9) 主節（渡連）

- a. *waa-dufi=ga/nu udu-ta* （人間普通名詞）
 私-友達=NOM 踊る-PST
 「私の友達が踊った」
- b. *ari=ga/*nu udu-ta* （3人称代名詞）
 あいつ=NOM 踊る-PST
 「あいつが踊った」

(10) 関係節（渡連）

- a. *waa-dufi=ga/nu udu-ta-n bafo* （人間普通名詞）
 私-友達=NOM 踊る-PST-ADN 場所
 「弟が踊った場所」
- b. *ari=ga/nu udu-ta-n bafo* （3人称代名詞）
 あいつ=NOM 踊る-PST-ADN 場所
 「あいつが踊った場所」

表6 国頭語金武方言における ga/nu の使用領域

主語の有生性		1/2代名	3代名	人固有名	親族目上	親族目下	人普通	動物	無生物
主節	ga								
	nu								
関係節	ga								
	nu								

(11) 主節 (金武)

a. *kuumuu=ga/nu* *tf-a-n* (無生物)

雲=NOM 来る -PST-IND

「雲が来た」

b. *inaguuttu=ga/*nu* *attf-a-n* (親族目下)

妹=NOM 歩く -PST-IND

「妹が歩いた」

(12) 関係節 (金武)

a. *kuumuu=ga/nu* *tf-a-nu* *tutfi* (無生物)

雲が=NOM 来る -PST-ADN とき

「雲が来たとき」

b. *inaguuttu=ga/nu* *attf-a-nu* *mitfi* (親族目下)

妹=NOM 歩く -PST-IND 道

「妹が歩いた道」

表7 沖縄語宜野湾方言における ga/nu の使用領域

主語の有生性		1/2代名	3代名	人固有名	親族目上	親族目下	人普通	動物	無生物
主節	ga								
	nu								
関係節	ga								
	nu								

(13) 主節 (宜野湾)

a. *wattaa uttu=ga/nu* *haaeefi-tfa-n* (親族目下)

私達の 弟=NOM 走る -PST-IND

「私達の弟が走った」

- b. *taro=ga/*nu haaefi-tfa-n* (人間固有名詞)
 太郎=NOM 走る -PST-IND
 「太郎が走った」

(14) 関係節 (宜野湾)

- a. *wattaa uttu=ga/nu haaefi-tfa-ru mitfi* (親族目下)
 私達の 弟=NOM 走る -PST-ADN 道
 「私達の弟が走った道」
- b. *taro=ga/nu haaefi-tfa-ru mitfi* (人間固有名詞)
 太郎=NOM 走る -PST-ADN 道
 「太郎が走った道」

2.2 節の他動性

2.1節のはじめに、共通日本語におけるガ・ノ交替が関係節など一部の従属節で可能であることを見た。一方、九州肥筑方言 (吉村 2006, Saruwatari 2016, 坂井2018) や鹿児島県甕島方言 (窪園 (監修) 2015) など、主節においてもガ・ノ交替が可能な日本語の方言の存在も知られている。これらの方言では主語の有生性に加えて、節の他動性 (transitivity) もガ・ノの選択に影響を与えることが報告されている。節の他動性は述語の動作性やそれに伴う主語の動作主性、意志性など様々な意味的要素によって決定されるが (Hopper and Thompson 1980)、上述の研究では(15)のような節の他動性階層を想定し、他動性の高い節ほどガ、低い節ほどノが主格助詞として使用される傾向が示されている。

(15) 他動性階層

他動詞節 > 意志自動詞節 > 非意志自動詞節
 例：XがYを食べる Xが走る Xが倒れる

以下、窪園 (監修) (2015 : 91-94) より甕島里方言のガ・ノの分布と用例の一部を挙げる。他動詞節では無生物に限られていたノの使用領域が、意志自動詞節では動物、非意志自動詞節では親族固有名詞まで広がっている。

表8 甌島里方言のga/no分布（窪園（監修）2015：91 表20を再構成）

		1代名詞	2代名詞	親族・固有	人間普通	動物	無生物	
他動詞節	ga							
	no							
意志自動詞節	ga							
	no							
非意志自動詞	ga							
	no							

(16) 他動詞節（甌島、里）

- a. [荷物はいつ送ってくれるのか、と聞かれて]

*asita jinaN=ga/*no okui-doo* (親族)

明日 次男=NOM 送る.NPST-SFP

「明日次男が送るよ」

- b. *iN=ga/*no wai-doo* (動物)

犬=NOM 割る.NPST-SFP

「犬が割るよ」

- c. *jinka=N mannaka=ba kawa=*ga/no nagai-toi* (無生物)

人家=GEN 真ん中=ACC 川=NOM 流れる-CONT.PST

「人家の真ん中を川が流れている」

(17) 意志自動詞節（甌島、里）

- a. *otooto=ga/*no ik-imoo-saa* (親族)

弟=NOM 行く-POL-NPST-SFP

「弟が行きますよ」

- b. *iN=ga/no de-te ki-ta* (動物)

犬=NOM 出る-INF 来る-PST

「犬が出てきた」

- c. *kumo=ga/no deteki-ta* (無生物)

雲=NOM 出て来る-PST

「雲が出てきた」

(18) 非意志自動詞節 (甌島、里)

- a. *mago=ga/no nmare-ta* (親族)
孫=NOM 生まれる-PST
「孫が生まれた」
- b. *neko=ga/no nmare-ta-na* (動物)
猫=NOM 生まれる-PST-SFP
「猫が生まれたな」
- c. *hon=ga/no ai-gaa* (無生物)
本=NOM ある-NPST-SFP
「本があるよ」

北琉球語の *ga/nu* 交替においてもこのような他動性の影響があるか、嘉鉄、古仁屋、金武、宜野湾で調査を行った。その結果、甌島方言や肥筑方言と同様に、他動性が低いほど主節における *nu* の使用領域が広がることが分かった。以下、調査した四つの方言における *nu* の使用領域を、節の他動性ごとに主節、関係節に分けて表に示す。なお、*ga* の使用領域に関しては節の他動性の影響は見られなかったため、煩雑さを避けるため表中の記載を省略する。

表9は嘉鉄方言における *nu* の使用領域である。まず主節に目を向けると、他動詞節では全ての有生性において *nu* の使用が許容されないのに対し⁷、意志自動詞節では動物名詞、非意志自動詞節では親族目下名詞まで *nu* の使用領域が広がっている。一方、関係節では、2.1節で見たように主節よりも *nu* の使用領域が広がっていることが確認できるが、*nu* の使用に関して他動性による影響は見られない。*nu* の使用領域は節の他動性に関わらず全て3人称代名詞までである。(19)から(21)に主節の例を挙げる。

⁷ ガ・ノ交替可能な関係節などの環境においても (i) のように目的語が伴う場合はノ主語の容認性が低下する「他動性制約 Transitivity restriction」の存在が知られている (Harada 1971、Watanabe 1996、Hiraiwa 2005等)。(i) aのように他動詞文であっても目的語が関係節の外にある場合はガ・ノ交替が許されるが (i) bのように節内に目的語がある場合は許されない。

- (i) a. [ジョンが買った] 本
b. [ジョンが/*の本を買った] 店 (Hiraiwa 2005 : 106)

嘉鉄、古仁屋、金武方言の主節他動詞文で *nu* の使用が許容されないのも他動性制約が関わっている可能性がある。

表9 嘉鉄方言 nuの使用領域

		1/2代名	3代名	人固有名	親族目上	親族目下	人普通	動物	無生物
主節	他動								
	意志								
	非意志								
関係節	他動								
	意志								
	非意志								

(19) 主節、他動詞節 (嘉鉄)

- a. *utuutu=ga/*nu mufi=ba ka-da* (親族目下)
 弟=NOM 餅=ACC 食べる -PST
 「弟が餅を食べた」
- b. *an mjaa=ga/*nu nidin=ba ka-da* (動物)
 あの猫=NOM ねずみ=ACC 食べる -PST
 「あの猫がねずみを食べた」
- c. *koo=nu midì=ga/*nu iwa=ba kjoo-cha* (無生物)
 川=GEN 水=NOM 岩=ACC 壊す -PST
 「川の水が岩を壊した」

(20) 主節、意志自動詞節 (嘉鉄)

- a. *utuutu=ga/*nu udu-ta* (親族目下)
 弟=NOM 踊る -PST
 「弟が躍った」
- b. *myaa=ga/nu nigì-ta* (動物)
 猫=NOM 逃げる -PST
 「猫が逃げた」
- c. *nìi=ga/nu nigì-ta* (無生物)
 熱=NOM 逃げる -PST
 「熱が逃げた」

(21) 主節、非意志自動詞節（嘉鉄）

- a. *utuutu=ga/nu toori-ta* (親族目下)
 弟=NOM 倒れる-PST
 「弟が倒れた」
- b. *mma=ga/nu toori-ta* (動物)
 馬=NOM 倒れる-PST
 「馬が倒れた」
- c. *kami=ga/nu kjoori-ta* (無生物)
 甕=NOM 壊れる-PST
 「甕が壊れた」

上記の傾向は古仁屋方言、金武方言でも同様に観察された。古仁屋方言の主節では、やはり他動詞節ではnuの使用が全ての有生性で許容されない一方、自動詞節ではnuの使用領域が少なくとも親族目下まで拡大している。意志自動詞節と非意志自動詞節の容認性判断はやや微妙であるが、意志では親族目上までが「?」、非意志自動詞節ではそれに加えて人固有名まで「?」となっており、後者のほうが若干nuの領域が広いと言える。関係節では他動性に関わりなく、3人称代名詞までnuの使用が容認されている。

表10 古仁屋方言nuの使用領域

		1/2代名	3代名	人固有名	親族目上	親族目下	人普通	動物	無生物
主節	他動								
	意志				?				
	非意志			?	?				
関係節	他動								
	意志								
	非意志								

(22) 主節、他動詞節（古仁屋）

- a. *takafi=ga/*nu tfaa=ba nu-da* (人固有名)
 タカシ=NOM 茶=ACC 飲む-PST
 「タカシがお茶を飲んだ」
- b. *tfaan=ga/*nu tfaa=ba nu-da* (親族目上)
 父=NOM 茶=ACC 飲む-PST
 「お父さんがお茶を飲んだ」

c. *kumo=ga/*nu teda=ba kaku-tfa* (無生物)

雲=NOM 太陽=ACC 隠す-PST

「雲が太陽を隠した」

(23) 主節、意志自動詞節 (古仁屋)

a. *takafi=ga/*nu udu-ta* (人固有名)

タカシ=NOM 踊る-PST

「タカシが躍った」

b. *ifan=ga/?nu udu-ta* (親族目上)

父=NOM 踊る-PST

「お父さんが躍った」

c. *kumo=ga/nu nigī-ta* (無生物)

雲=NOM 逃げる-PST

「雲が逃げた」

(24) 主節、非意志自動詞節 (古仁屋)

a. *takafi=ga/?nu toori-ta* (人固有名)

タカシ=NOM 倒れる-PST

「タカシが倒れた」

b. *ifan=ga/?nu toori-ta* (親族目上)

父=NOM 倒れる-PST

「お父さんが倒れた」

c. *kamī=ga/nu kjoori-ta* (無生物)

甕=NOM 壊れる-PST

「甕が壊れた」

金武方言の主節でも、やはり主節の他動詞節でnuが全く許容されず、意志自動詞節では無生物名詞まで、非意志自動詞節では親族目下名詞までnuの使用が可能である。関係節では全ての他動性において親族目下までがnuの使用領域であった。

表11 金武方言 nu の使用領域

		1 / 2 代名	3 代名	人固有名	親族目上	親族目下	人普通	動物	無生物
主 節	他 動								
	意 志								
	非意志								
関係節	他 動								
	意 志								
	非意志								

(25) 主節、他動詞節 (金武)

- a. *inaguuttuu=ga/*nu kkwa nurat-ta-n* (親族目下)
 妹=NOM 子ども (=ACC) 叱る -PST-IND
 「妹が子どもを叱った」
- b. *mjaa=ga/*nu kkwa kasa-dza-n* (動物)
 猫=NOM 子ども (=ACC) ひっかく -PST-IND
 「猫が子どもをひっかいた」
- c. *kazi=ga/*nu tigami mutfii-dza-n* (無生物)
 風=NOM 手紙 (=ACC) 持ってくる -PST-IND
 「風が手紙を持ってきた」

(26) 主節、意志自動詞節 (金武)

- a. *inaguuttuu=ga/*nu at-tfa-n* (親族目下)
 妹=NOM 歩く -PST-IND
 「妹が歩いた」
- b. *myaa=ga/*nu at-tf-a-n* (動物)
 猫=NOM 歩く -PST-IND
 「猫が逃げた」
- c. *kuumu=ga/nu t-tfa-n* (無生物)
 雲=NOM 来る -PST-IND
 「雲が来た」

(27) 主節、非意志自動詞節 (金武)

- a. *inaguuttuu=ga/nu toori-ta-n* (親族目下)
 妹=NOM 倒れる -PST-IND
 「妹が倒れた」

b. *maa=ga/nu toori-ta-n* (動物)

馬=NOM 倒れる -PST-IND

「馬が倒れた」

c. *kaami=ga/nu wari-ta-n* (無生物)

甕=NOM 割れる -PST-IND

「甕が割れた」

最後に宜野湾方言の例を示す。主節の他動詞節で動物主語、無生物主語においてnuの使用が容認された点でこれまでの方言と異なるが、主節において他動性が低くなるほどnuの使用領域が広がるという点では他の方言と同様である。また、関係節ではさらにnuの範囲が広いが、他動性の影響は見られない。

表12 宜野湾方言 nu の使用領域

		1/2代名	3代名	人固有名	親族目上	親族目下	人普通	動物	無生物
主節	他動							■	■
	意志					■			
	非意志					■			
関係節	他動			■					
	意志			■					
	非意志			■					

(28) 主節、他動詞節 (宜野湾)

a. *tammee=ga/*nu yuuban tfuku-ta-n* (親族目上)

おじいさん=NOM 夕飯 (=ACC) 作る -PST-IND

「おじいさんが夕飯を作った」

b. *uttu=ga/*nu yuuban tfuku-ta-n* (親族目下)

弟=NOM 子ども (=ACC) 作る -PST-IND

「弟が夕飯を作った」

c. *majaa=ga/nu ŋiju kwa-too-ta-n* (動物)

猫=NOM 魚 (=ACC) 食う -CONT-PST-IND

「猫が魚を食べていた」

(29) 主節、意志自動詞節 (宜野湾)

- a. *tammee=ga/*nu haaefi-tfa-n* (親族目上)
おじいさん=NOM 走る-PST-IND
「おじいさんが走った」
- b. *uttu=ga/nu haaefi-tfa-n* (親族目下)
弟=NOM 走る-PST-IND
「弟が走った」
- c. *majaa=ga/nu hingi-ta-n* (動物)
猫=NOM 逃げる-PST-IND
「猫が逃げた」

(30) 主節、非意志自動詞節 (宜野湾)

- a. *tammee=ga/*nu toori-ta-n* (親族目上)
おじいさん=NOM 倒れる-PST-IND
「おじいさんが倒れた」
- b. *uttu=ga/nu toori-ta-n* (親族目下)
弟=NOM 倒れる-PST-IND
「弟が倒れた」
- c. *majaa=ga/nu toori-ta-n* (動物)
猫=NOM 倒れる-PST-IND
「猫が倒れた」

2.3 疑問節

本節の最後に、叙述文で *nu* の使用が許容されない場合でも、疑問文では容認可能だとする例がいくつか見られたことを報告する。

まず 2.1 節の表 3 に示したように、古仁屋方言では関係節における *nu* 使用の境界は 3 人称代名詞までで、(31)a のように 2 人称代名詞の *nu* 標示は容認されなかった。しかし、(31)b のように文全体を疑問文にすると容認性が上がるという判断が示された。これと同様の判断が嘉鉄方言話者にも見られた(32)。

(31) 関係節、2 人称代名詞主語 (古仁屋)

- a. *kuri=ja ura=ga/*nu udu-ta-n tuhoro doo*
これ=TOP お前=NOM 踊る-PST-ADN 場所 SFP
「これはお前が躍った場所だ」

- b. *kuri=ja ura=ga/nu udu-ta-n tuhoro naa?*
 これ=TOP お前=NOM 踊る-PST-ADN 場所 Q
 「これはお前が躍った場所なのか？」

(32) 関係節、2人称代名詞主語 (嘉鉄)

- a. *kuri=ja ura=ga/*nu tiktan mutfi doo*
 これ=TOP お前=NOM 作る-PST-ADN 餅 SFP
 「これはお前が作った餅だ」
- b. *kuri=ja ura=ga/nu tiktan mutfi naa?*
 これ=TOP お前=NOM 作る-PST-ADN 餅 Q
 「これはお前が作った餅なのか？」

渡連方言では、主節における *nu* の使用は人間普通名詞までであったが (表5)、疑問文にすると親族目下名詞まで *nu* 主語が容認できるという判断であった。

(33) 主節、親族目下名詞 (渡連)

- a. *utuutu=ga/*nu udu-ta*
 弟=NOM 踊る-PST
 「弟が躍った」
- b. *utuutu=ga/nu udu-ti naa?*
 弟=NOM 踊る-INF Q
 「弟が躍ったのか？」

疑問節が *nu* の使用領域を広げる可能性に関しては体系的に調査を行ったわけではないので、主語の有生性、主節・関係節の区別、節の他動性などの要因との関連性について今後追加調査を行っていきたい。

2.4 まとめ

本節では北琉球語の主語における *ga/nu* 交替について記述した。従来指摘されていた主語の有生性に加え、主節・関係節の区別、節の他動性、叙述文・疑問文の区別などの統語的要素も *ga/nu* 交替に影響することを見た。以下に本節の観察をまとめる。

(34) 節のタイプと北琉球語の *ga/nu* 交替

- a. 主節よりも関係節で *nu* の使用領域が広がる。

- b. 主節では他動性の低い節ほど nu の使用領域が広がる。
- c. 関係節では ga/nu 交替に関して他動性の影響を受けない。
- d. 疑問節で nu の使用領域が広がる例がある。

3. 主格目的語

前節では主語における主格標示について見た。本節では目的語に主格助詞が付く例、いわゆる主格目的語に関して記述する。

共通日本語では可能述語「～できる」など一部の状態述語の節において、目的語の主格標示が可能である (Kuno 1973 : ch 3)⁸。

(35) 主格目的語 (日本語)

- a. 太郎はたくさん酒を／*が飲む。
- b. 太郎はたくさん酒が／を飲む。

琉球諸語における主格目的語の可否についてはこれまで体系的に記述されてこなかったが、いくつかの研究で主格目的語が許容されないという報告が散見される。以下、国頭語幸喜方言と沖縄語那覇方言の例をあげる。

(36) 国頭語幸喜方言 (かりまた 2008 : 33)

*taruu=ja ʔuranda=nu ʃumutʃi=∅/*ga/*nu jumi-is-u-n*
 太郎=TOP 英語=GEN 本=ACC/NOM 読む-POT-NPST-IND
 「太郎は英語の本が読める」

(37) 沖縄語那覇方言 (Kinjo 2012 : 220)

*taroo=ja jamatugutʃi=∅/*ga/*nu hanafi-uus-u-n*
 太郎=TOP 日本語=ACC/*NOM 話す-POT-NPST-IND
 「太郎は日本語が話せる」

本節では奄美語瀬戸内町方言 (渡連、古仁屋、網野子、篠川、嘉鉄) を対象に行った主格目的語に関する調査結果を報告する。その結果、主格目的語の容認可能性については地域や話者で差異が見られるものの、(38)のような傾向が観察された。3.1 節で調査票につ

⁸ 可能述語の他にも、願望述語 (～したい) や「好き・嫌い」などの形容詞述語でも主格目的語が見られる。本稿では可能述語文を対象を絞ることにする。

いての概要と(38)a、3.2節で(38)b、3.3節で(38)cについてそれぞれ見ていく。

(38) 奄美語瀬戸内町方言における主格目的語のパターン

- a. 主節と関係節で主格目的語を容認する話者とし、ない話者に分かれる。
- b. どちらも条件節や不定節など時制を欠いた節では主格目的語が容認される。
- c. 主節と関係節で主格目的語が容認される場合は無生物に限られる。

3.1 調査結果概要

調査では節のタイプ（主節、関係節、条件節、不定節）と目的語の有生性（人物、無生物）ごとに作成した日本語文をそれぞれの方言に直してもらい、目的語にga/nuをつけることが可能かどうかを確認した。表13に調査で使用した提示文の概略をまとめる。

表13 主格目的語調査票概略 (X = 人、Y = 無生物)⁹

	主節	関係節	条件節	不定節
人物	Xを雇える	Xを雇える店	Xを雇えれば	—
無生物	Yを弾ける	Yを弾ける人	Yを弾ければ	Yを弾けて

調査の結果、主格目的語の容認可能性について表14、表15のような二つのグループに分けることができた。

表14 主格目的語、グループA（篠川、嘉鉄、網野子）

	主節	関係節	条件節	不定節
人物	×	×	○	—
無生物	×	×	○	○

表15 主格目的語、グループB（渡連、古仁屋）

	主節	関係節	条件節	不定節
人物	×	×	○	—
無生物	○	○	○	○

⁹ 不定節の人物目的語文は自然な文が提示できなかったため調査票から外した。また調査によっては無生物目的語文の述語として「Yを話せる」を使ったところもある（(42)b, (44)b参照）。

両者の違いは主節、関係節で主格目的語を容認するかどうかである（表中灰色部分）。グループA（篠川、嘉鉄、網野子）では容認されず、グループB（渡連、古仁屋）では容認された。

3.2 時制節と非時制節

両グループに共通するのは条件節と不定節のような時制を欠いた節で主格目的語が容認されるということである。また、人物目的語にはga、無生物目的語にはnuが使用されることも確認できる。以下、篠川方言より具体例を挙げる。

(39) 条件節（篠川）

- a. *kibarjuntfu=ba/ga tamm-ar-iba jittfa-ri-jaa* (人物)
 従業員=ACC/NOM 頼む-POT-COND 良い-NPST-SFP
 「従業員を頼めたら（雇えたら）いいなあ」
- b. *famisen=∅/nu hik-jar-iba jittfa-ri-jaa* (無生物)
 三味線=ACC/NOM 弾く-POT-COND 良い-NPST-SFP
 「三味線を弾けたらいいなあ」

(40) 不定節（篠川）

- famisen=∅/nu hik-i-ti jittfa-ri-jaa* (無生物)
 三味線=ACC/NOM 弾く-POT-INF 良い-NPST-SFP
 「三味線を弾けていいなあ」

一方、グループAでは主節、関係節のような時制節において主格目的語が容認されなかった。以下に篠川方言の例を挙げる。

(41) 主節（篠川）

- a. *mittfar=naba kibarjuntfu=∅/*ga tamm-ari-ddoo* (人物)
 三人=COND 従業員=ACC/*NOM 頼む-POT-SFP
 「三人なら従業員を頼める（雇える）よ」
- b. *wan=na famisen=∅/*nu hik-jari-ddoo* (無生物)
 私=TOP 三味線=ACC/*NOM 弾く-POT-SFP
 「私は三味線を弾けるよ」

(42) 関係節 (篠川)

- a. *kibarjuntfu=∅/*ga tamm-ari-n mifee* (人物)
従業員=ACC/*NOM 頼む-POT-ADN 店
「従業員を頼める (雇える) 店」
- b. *fimajumuta=∅/*nu hanas-ju-n tfu* (無生物)
島言葉=ACC/*NOM 話す-POT-ADN 人
「島言葉を話せる人」

3.3 有生目的語と無生物目的語

次にグループBを見てみよう。このグループでは主節、関係節で主格目的語が容認される。しかし主格目的語が容認されるのは無生物目的語に限られ、人物目的語では容認されなかった。以下、古仁屋方言の例を挙げる。

(43) 主節 (古仁屋)

- a. *mittfar=naba zuugjooin=ba/*ga tika-ju-ddoo* (人物)
三人=COND 従業員=ACC/*NOM 使う-POT-SFP
「三人なら従業員を使える (雇える) よ」
- b. *fami=ba/nu hik-ju-ddoo* (無生物)
三味線=ACC/NOM 弾く-POT-SFP
「三味線を弾けるよ」

(44) 関係節 (古仁屋)

- a. *zuugjooin=ba/*ga tika-ju-n mifee* (人物)
従業員=ACC/*NOM 使う-POT-ADN 店
「従業員を使える (雇える) 店」
- b. *fimajumuta=ba/nu hanas-ju-n tfu* (無生物)
島言葉=ACC/NOM 話す-POT-ADN 人
「島言葉を話せる人」

4. まとめと今後の課題

本稿では北琉球語 (奄美語、国頭語、沖縄語) を対象に主格助詞 *ga/nu* の使用について記述し、主格標示される名詞の有生性に加えて、それが現れる節のタイプという統語的要因が大きく影響することを示した。まず主語につく *ga/nu* の選択について、関係節、他動性の低い節、疑問節で *nu* の使用領域が広がることを示した。次に目的語につく *ga/nu* (主

格目的語)については、非時制節(条件節、不定節)で容認される一方、時制節(主節、関係節)では容認するグループとそうでないグループに分けられることを見た。また時制節で主格目的語を容認するグループでも、それが無生物目的語に限られ、人物目的語については容認されないことを示した。

今後の課題として、まず主格助詞 nu の使用領域を広げる統語的環境として関係節以外にどのような節のタイプがあるか、追加調査の必要がある。また、疑問節と nu 主語の関係についても体系的に調べていきたい。主格目的語に関しては、本稿では可能述語を対象を絞ったため、願望述語や「好き・嫌い」といった形容詞活用する述語文についても調査することでより体系的な記述が得られる。また、本稿で記述したような現象の理論的な分析とその経験的な帰結に関する研究も今後行っていきたい。

略号一覧

ACC accusative 対格	ADN adnominal 連体形	CONT continuous 継続
GEN genitive 属格	IND indicative 直接叙述法	INF infinitive 不定
NOM nominative 主格	NPST 非過去	POT potential 可能
POL polite 丁寧	PST past 過去	Q question 疑問
SFP sentence final particle 終助詞	TOP topic 主題	∅ ゼロ標示

謝辞

本調査に協力していただいた話者の方々、またこれらの方々を紹介していただいた金武町教育委員会、瀬戸内町教育委員会の職員の方々に心より感謝申し上げます。

参考文献

- かりまたしげひさ (2008) 「沖縄県名護市幸喜方言の名詞の格 = とりたて - ga 格、nu 格、ハダカ格、ja のとりたて形 -」『日本東洋文化論集』(14)、1-80
- 窪園晴夫 (監修)、森勇太・平塚雄亮・黒木邦彦 (編) (2015) 『甌島里方言記述文法書』国立国語研究所報告書。
- 坂井美日 (2018) 「九州方言における主語標示の使い分けと動作主性」『日本言語学会第156回大会予稿集』
- 西岡敏 (2013) 「『国頭語』概説」沖縄大学地域研究所編『琉球諸語の復興』沖縄大学地域研究所
- 田畑千秋 (2009) 「奄美大島方言の格標示」松本泰丈・田畑千秋 (編) 『奄美語研究ノート』47-81. 大分大学教育福祉科学部田畑研究室
- 玉本 2020 「沖縄北部・金武方言の動詞形態論」『琉球の方言』44号、35-68. 法政大学沖縄

文化研究所

- 角田太作 (2009) 『世界の言語と日本語 改訂版 言語類型論から見た日本語』 くろしお出版
- 内間直仁・新垣公弥子 (2000) 『沖縄北部・南部方言の記述的研究』 風間書房
- 吉村紀子 (2006) 「熊本八代方言から日本語を見る：主格の「が」・「の」をめぐって」
Scientific approaches to language 5, 195-211. 神田外語大学
- Kinjo, Kunio (2012) Dative subject and nominative object constructions in Naha Ryukyuan. 『日本言語学会第145回大会予稿集』 220-225.
- Kuno, Susumu (1973) *The structure of the Japanese language*. Cambridge MA: MIT Press.
- Maki, Hideki and Asako Uchibori (2008) Ga/no conversion. In Shigeru Miyagawa and Mamoru Saito (eds.) *Handbook of Japanese linguistics*, 192-216. Oxford: Oxford University Press.
- Hiraiwa, Ken (2005) *Dimensions of symmetry in syntax: agreement and clausal architecture*. Doctoral dissertation, Massachusetts Institute of Technology.
- Harris, Alice C. (1990) Alignment typology and diachronic change. In Lehmann, Winfred P. (ed.), *Language typology 1987: systematic balance in language: papers from the Linguistic Typology Symposium, Berkeley, 1-3 December 1987*. Amsterdam & Philadelphia: John Benjamins.
- Harada, Shin-ichi (1971) Ga-no conversion and idiolectal variations in Japanese. *Gengo Kenkyuu* 60, 25-38.
- Hopper, Paul J. and Sandra A. Thompson (1980) Transitivity in grammar and discourse. *Language* 56, 251-299.
- Saruwatari, Asuka (2016) *Nominative and genitive cases in Japanese: From dialectal and cross-linguistic perspectives*. Doctoral dissertation, Osaka University.
- Shimoji, Michinori (2010) Ryukyuan languages: An introduction. In Michinori Shimoji and Thomas Pellards (eds.) *An introduction Ryukyuan languages*. Tokyo: ILCAA.
- Shimoji, Michinori. (2018). Information structure, focus, and Focus-Marking Hierarchies. *Gengo Kenkyuu* 154: 88-122.
- Silverstein, Michael (1976) Hierarchy of features and ergativity. In R.M.V Dixon (ed.) *Grammatical categories in Australian languages*, 112-171. Canberra: Australian National University.
- Watanabe, Akira (1996) Nominative-genitive conversion and agreement in Japanese: A cross-linguistic perspective. *Journal of East Asian Linguistics* 5: 373-410.